

話す技術

基礎演習 #2

阪本浩章

神戸大学経済学研究科



はじめに

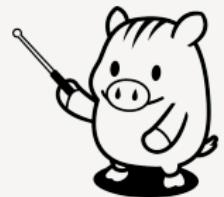
技術がなければ伝わらない

- 他人に「分かってもらう」ことが必要になる場面は多い
 - 就職活動や学位審査における面接
 - 社内における企画や改善策の提案
 - 顧客から依頼された調査結果の報告
- 中身がよければ「分かってもらえる」はず？
- 意図した通りに伝わらなければ正当な評価は受けられない

何を伝えるか × どう伝えるか = 何が伝わるか

今日お話しすること

1. プrezenの設計
2. プrezenの準備
3. プrezenの実践





1
/3

プレゼンの設計

目的を明確にする

聴衆を意識する

ストーリーを練る

良いプレゼン = 目的を果たせるプレゼン

- 絶対的に「良いプレゼン」というものはない
 - ある目的には適切でも別の目的には不適切になりうる
 - 逆に目的を達成できればどのようなプレゼンでもよい
- 目的はさまざま
 - 自分の能力や将来性を面接官に示したい
 - アイディアを説得的に伝えてまわりの人を動かしたい
 - 顧客に知識や情報を効率よく伝えたい

→ 目的が違えばやるべきプレゼンも異なる
- 常に「目的に対して効果的か」を自問する

聞き手の立場になる

- 聴衆はさまざま
 - 専門家なのか、専門外の人が多いのか
 - トピックに関心があるのか、報告者に関心があるのか
 - 既に興味があるのか、まだ興味を持っていないのか
- 聴衆に合わせたプレゼンが必要
 - 扱う範囲や内容の詳しさ
 - 情報を出す順番やペース配分
 - 背景説明や「つかみ」の有無
- 話し手の事情を聞き手に押し付けない
 - ✗ 自分が話したいことを自分が話したいように
 - 聴き手が求めている情報を聞き手の立場になって

聞き手のストレスを制御する

- プrezenの最中に聞き手が感じるストレス
 - 要はどういう話なのだろう...
 - 全体の中で今どの部分にいるのか...
 - それは必ずしも正しくないような...
- 定石に従う = 聞き手にストレスをかけない
 - 全体像 → 詳細 → 補足(想定される疑問への応答) → 全体像
 - 主張 → 根拠 → 深堀り(想定される反論への再反論) → 主張
 - 引き → 寄り → 寄り(別アングル) → 引き
- 型を破る = 聞き手に効果的にストレスをかける
 - 身近な具体例からはじめて親近感を抱かせる
 - 最初から結論を示さず聞き手と一緒に解決策を導く



2
/3

プレゼンの準備

資料の役割を理解する

みせる資料を作る

デザインに語らせる

資料作成の 2 つの目的

- 資料はプレゼンを補完する（代替するのではなく）
 - 代替的：資料を読めば話を聞く必要がない
 - 補完的：資料によって話す内容がより効果的に伝わる
- 資料を作成することで自分の頭を整理する
 - 要約：「要するにどういうことか」を考えさせられる
 - 取捨：話すべき（でない）ことが明確になる
 - 発見：理解が不十分だったポイントに気付かされる

プレゼンの準備 – みせる資料を作る

プレゼンの資料は「みせる」もの

- 「読ませる」のではなく「見せる・魅せる」
 - 情報を要約する図表やグラフ
 - 情報に立体感を与えるレイアウトや配色
- 視認性の高いフォントを使う
 - 可読性：文字が読みやすいか
 - 視認性：ぱっと見て認識しやすいか

	和文	英文
可読性が高い	明朝体	Serif Type
視認性が高い	ゴシック体	Sans-Serif Type

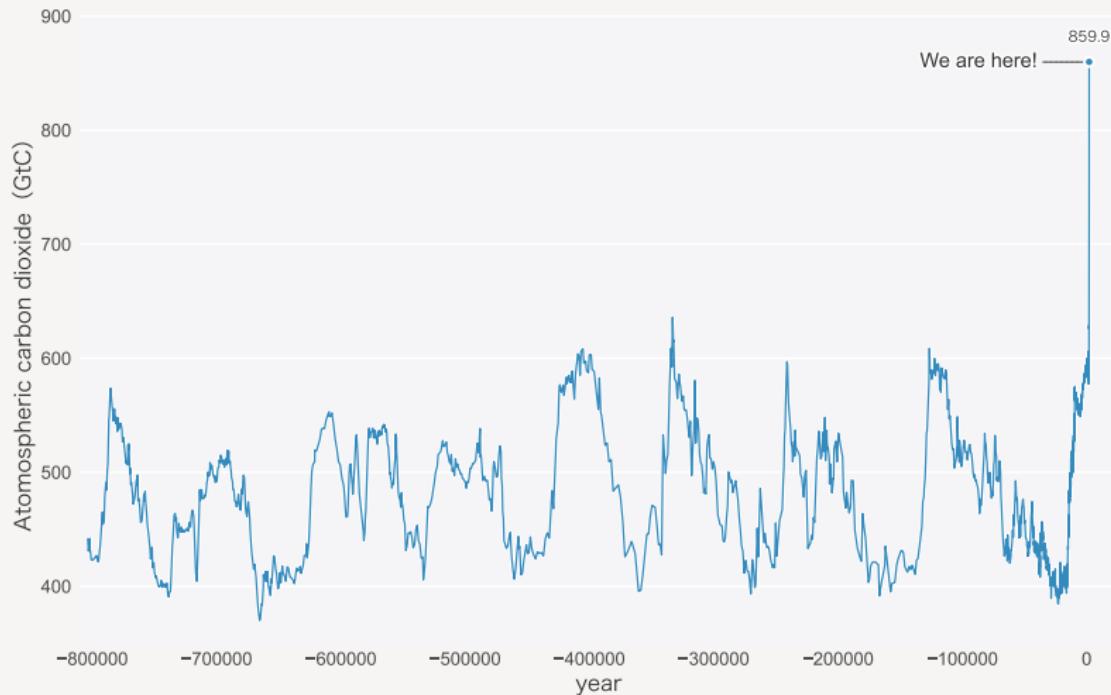
情報を要約・視覚化する

- 情報はなるべく「絵」にする
 - 量的・具体的な情報：グラフや地図
 - 質的・抽象的な情報：ダイアグラムやチャート
- 目的に応じて適した表現を用いる
 - **変化** → 折れ線グラフ
 - **比較** → 棒グラフ
 - **割合** → 円グラフ
 - **相関** → 散布図
 - **分布** → 地図
- アニメーションも（過剰でなければ）効果的

具体例：大気中の二酸化炭素量の変化

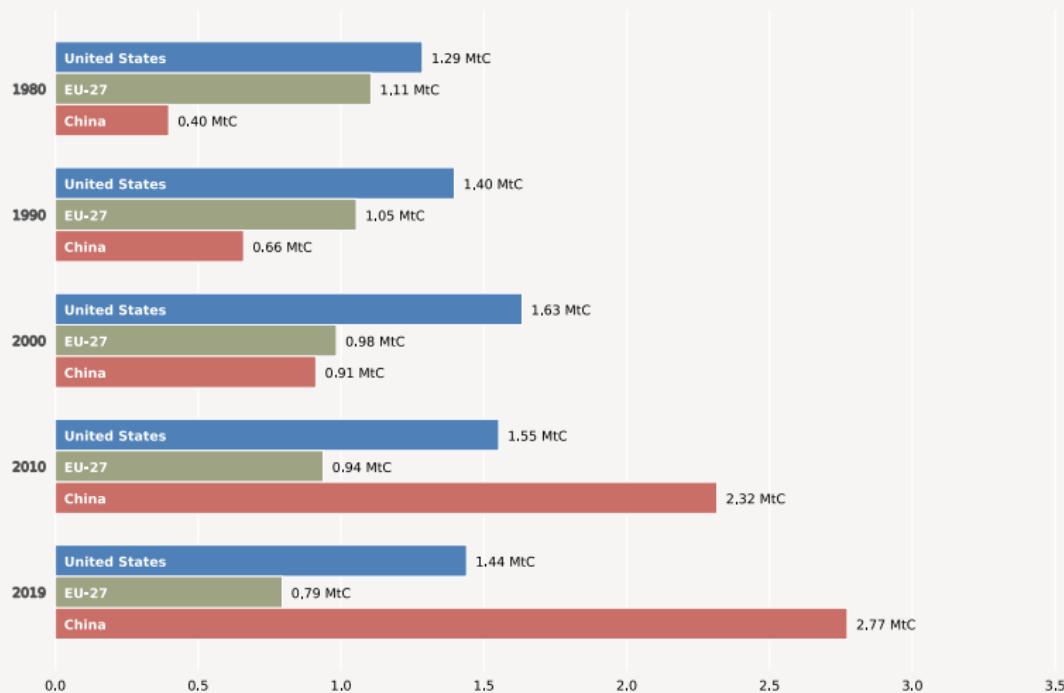
- 大気中の二酸化炭素濃度は上昇している
 - 現在はおよそ 860GtC にまで達している
 - これは過去 80 万年間で見ても未曾有の水準
 - 氷期と間氷期のサイクルで二酸化炭素濃度は増減
 - これまで 400GtC から 600GtC の範囲に収まってきた
- 文字だけで情報を伝えるのは難しい

折れ線グラフ：大気中の二酸化炭素量の変化

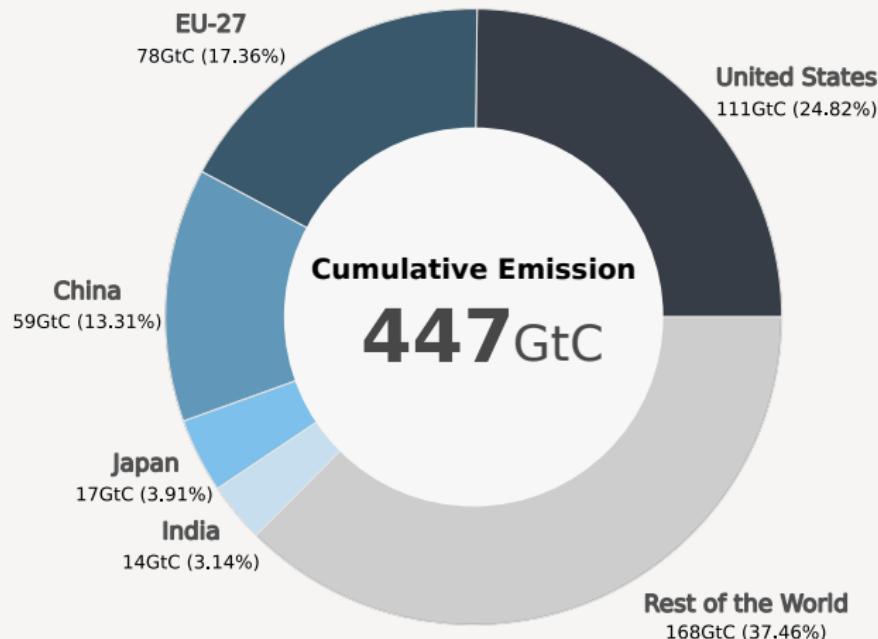


プレゼンの準備 – みせる資料を作る

棒グラフ：二酸化炭素の排出量の比較

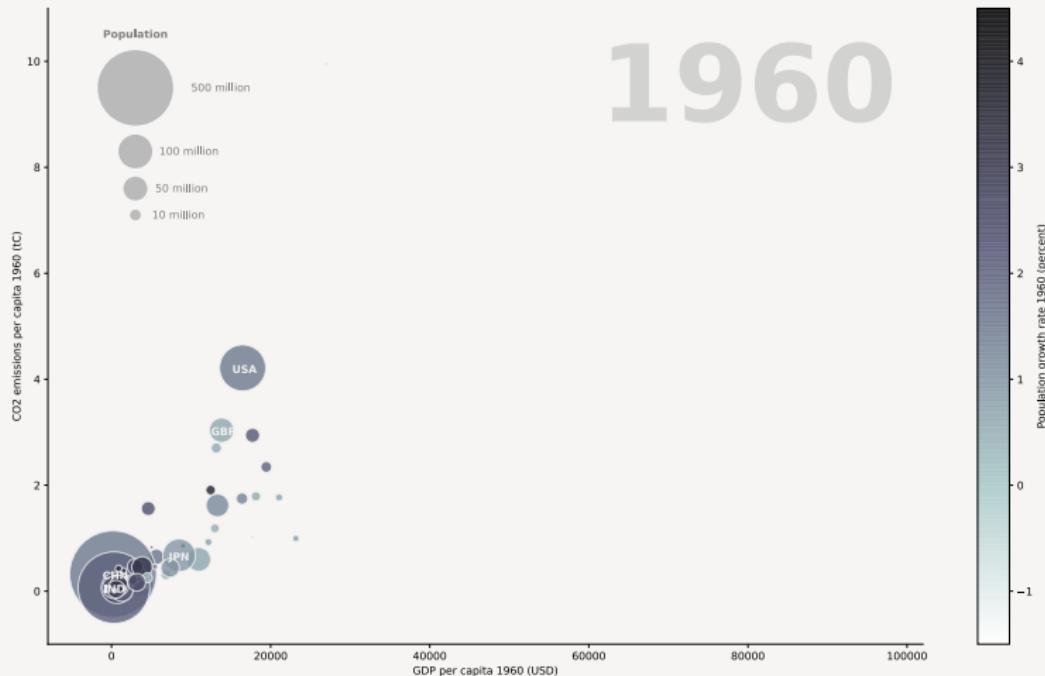


円グラフ：二酸化炭素の累積排出量の割合

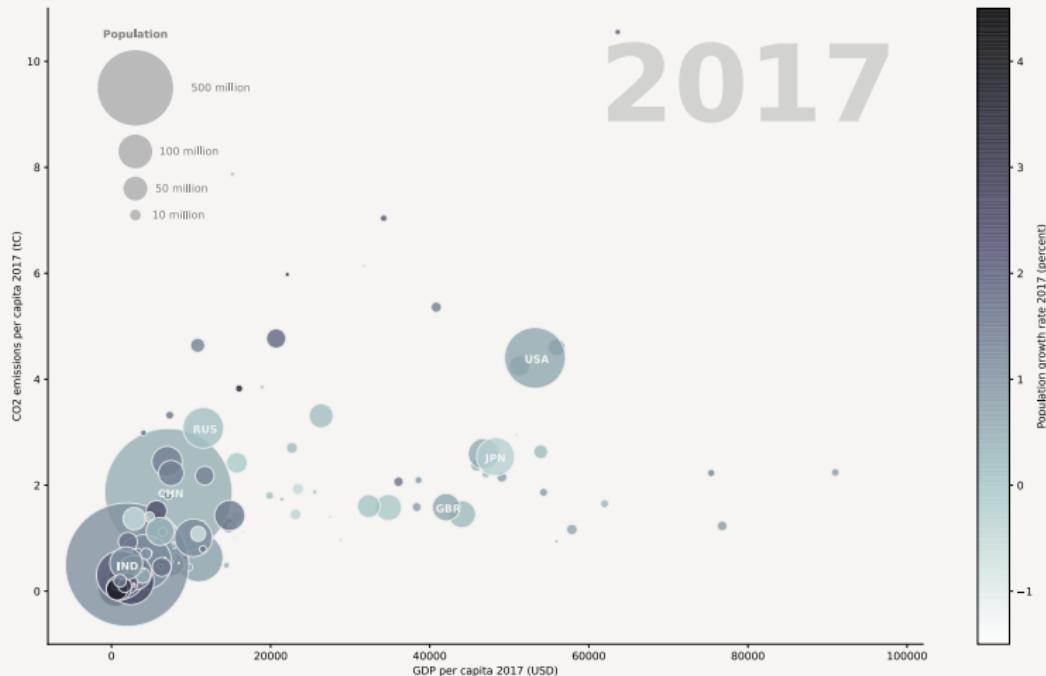


プレゼンの準備 – みせる資料を作る

散布図：GDP と二酸化炭素排出量の相関（一人当たり）



散布図：GDP と二酸化炭素排出量の相関（一人当たり）

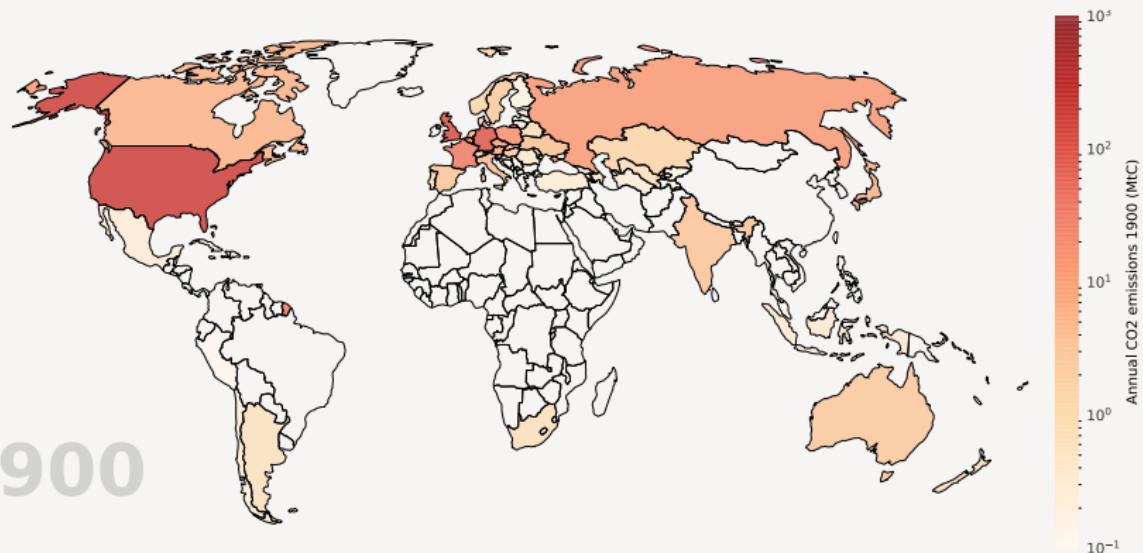


プレゼンの準備 – みせる資料を作る

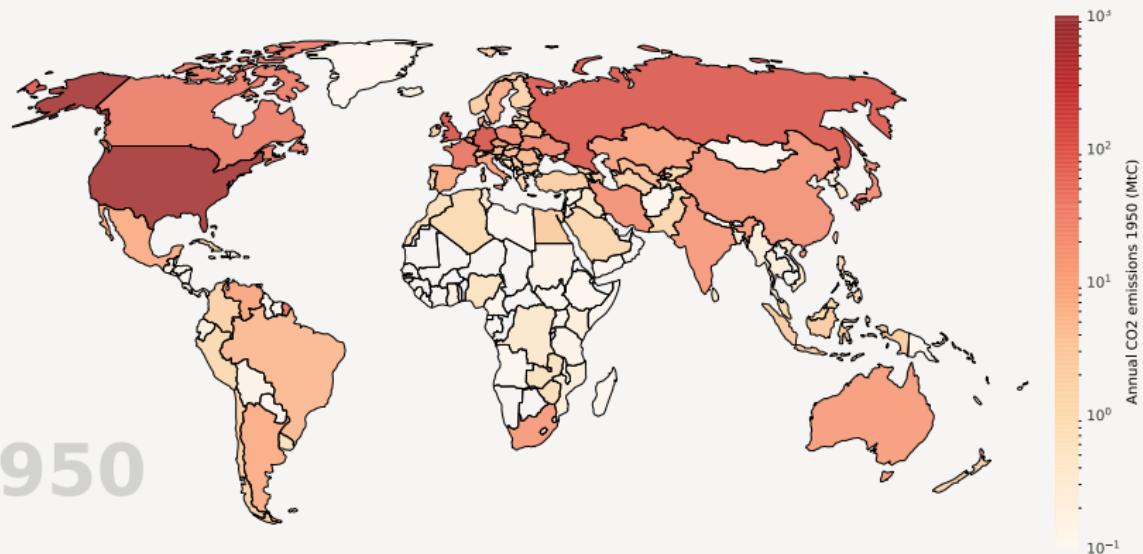
地図：二酸化炭素の年間排出量の分布



地図：二酸化炭素の年間排出量の分布

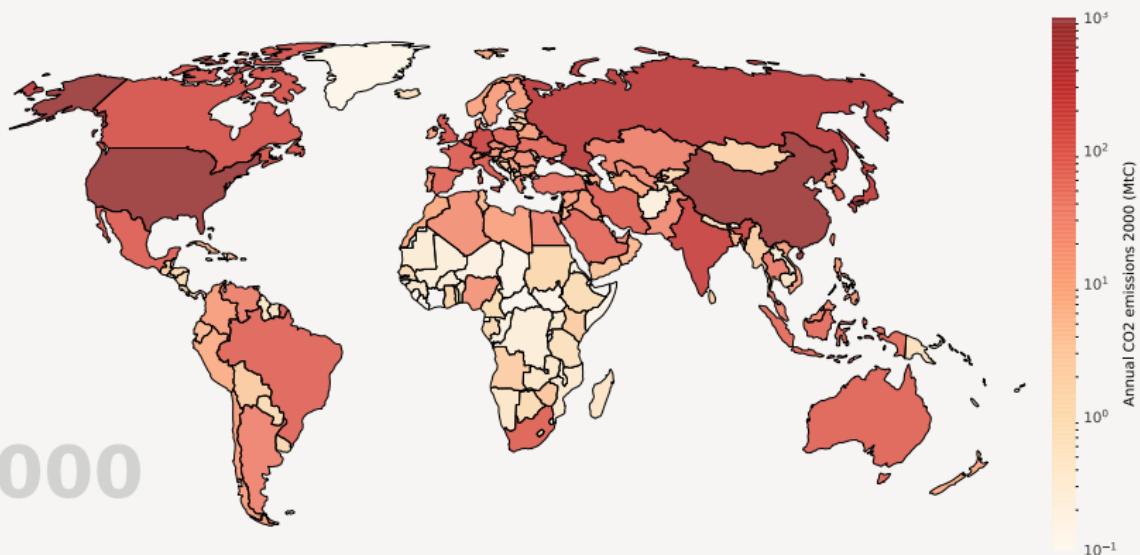


地図：二酸化炭素の年間排出量の分布



1950

地図：二酸化炭素の年間排出量の分布



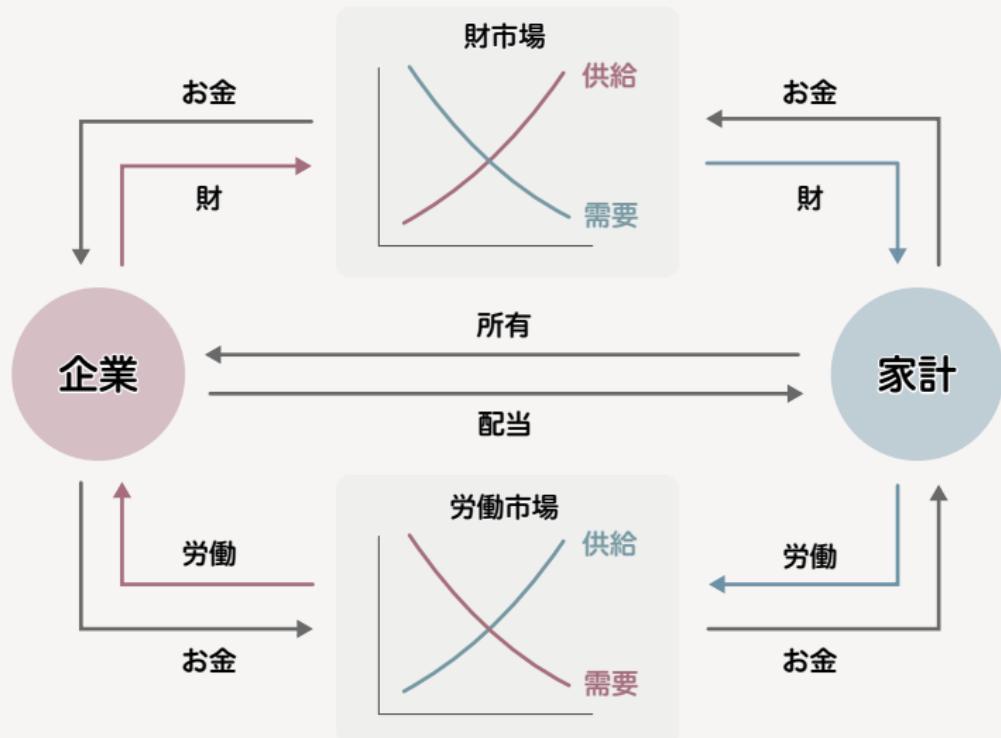
情報に立体感を与える

文字を並べただけの平面的な情報は頭に入りづらく記憶にも残りにくい。そこで、デザインを工夫して情報に立体感を与える。たとえば余白を制御してグループ関係を示したり、並べ方によって並列・従属関係を明らかにするとよい。また、配色・濃淡・明暗を使って要素を強調したり、同じパターンを繰り返してリズムや連続性を生み出したりすることも有効である。

- デザインの原則
 - **近接** 余白を制御して複数の要素をグループ化する
 - **整列** 並べ方によって並列・従属関係を明らかにする
 - **対比** 配色・濃淡・明暗を使って要素を強調する
 - **反復** 同じパターンを繰り返してリズムや連続性を生み出す

プレゼンの準備 – デザインに語らせる

図解への応用



配色への応用

- 単色で統一感を生み出す
- 補色で**アクセント**を入れる
- 明度の高い色を使わない・色を使いすぎない

はじめに



技術がなければ伝わらない

- 他人に「分かってもらう」ことが必要になる場面は多い
 - 就職活動や学位審査における面接
 - 社内における企画や改善策の提案
 - 顧客から依頼された調査結果の報告
- 中身がよければ「分かってもらえる」はず？
- 意図した通りに伝わらなければ正当な評価は受けられない

何を伝えるか × どう伝えるか = 何が伝わるか

配色への応用

- 単色で統一感を生み出す
- 補色で**アクセント**を入れる
- 明度の高い色を使わない・色を使いすぎない

はじめに



技術がなければ伝わらない

- 他人に「分かってもらう」ことが必要になる場面は多い
 - 就職活動や学位審査における面接
 - 社内における企画や改善策の提案
 - 顧客から依頼された調査結果の報告
- 中身がよければ「分かってもらえる」はず？
- 意図した通りに伝わらなければ正当な評価は受けられない

何を伝えるか × **どう伝えるか** = 何が伝わるか



3
1/3

プレゼンの実践

声に出して練習する

改訂の必要性に気づく

発表を楽しむ

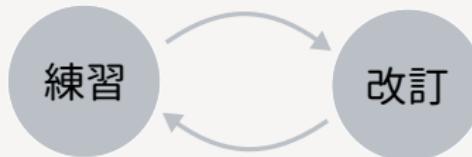
プレゼンの実践 – 声に出して練習する

本番で恥をかくか、恥を忍んで練習するか

- 内容と資料が「完成」したら予行演習をする
 - 必ず声に出して練習すること
 - 可能な限り本番に近い状況で
 - 録音・録画して自分で確認してみるとよい
- 個人的なオススメ
 - 原稿をつくる（本番で読み上げるためではない）
 - 身体で覚える（頭はアドリブのためにとっておく）
 - まわりの人（家族や友人）に聞いてもらう

違和感を大事にする

- 練習中に「違和感」がある箇所 = 改訂が必要な箇所
 - 上手く説明できない項目がある（理解が不足）
 - 次に話す内容を忘れてしまう（論理の飛躍）
 - 極端に話が長くなるスライドがある（分割が不十分）
- 内容・資料を改訂する ⇒ 練習が楽になる
- 違和感がなくなるまで繰り返す



余裕をもって本番に臨む

- 口頭発表 ≠ 情報を吐き出すこと
- 口頭発表 = 聴衆とのコミュニケーション
 - 言語的：質問やコメントへの対処
 - 非言語的：アイコンタクトや間のとり方
- 練習・準備することで生まれる余裕を活用する
 - アウトプットすること自体に頭を使わなくて済む
 - インタラクションやフィードバックを楽しめる

まとめ

プレゼンの設計

- 目的を明確にする
- 聴衆を意識する
- ストーリーを練る

プレゼンの準備

- 資料の役割を理解する
- みせる資料を作る
- デザインに語らせる

プレゼンの実践

- 声に出して練習する
- 改訂の必要性に気づく
- 発表を楽しむ

